

2014年5月18日

ブライアン・ブルエット牧師

## クリスチャン経済における七本の矢-3「人を不当に裁いてはいけない」

### 導入

今日も、クリスチャン経済における七本の矢というシリーズを続けていきたいと思えます。2週間前に私たちが思い描いた健全な教会の姿を振り返ってみましょう。誰もが何かに関わり、誰もが歓迎され、体の一部となっていく健全な教会です。すべてにおいて神が称えられる教会です。日曜の朝が待ち遠しくなる教会、皆が信仰の成長を遂げ、礼拝に遅れずに来る教会です。すでにお伝えしましたが、私が目指すのは、この教会が神の愛を体験できる場所、愛されていると感じられる場所となるようお手伝いすることです。教会に来るだけでは十分ではありません。私たちが教会とならなければならないのです。何度も言いますが、この教会は聖書の教えに根差したキリスト中心の教会となれます。なぜ矢についてのメッセージを語るのでしょうか。次のようなみことばがあります。

イザヤ書 49:2,3 49:2 主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私を隠し、私をとぎすました矢として、矢筒の中に私を隠した。49:3 そして、私に仰せられた。「あなたはわたしのしもべ、イスラエル。わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」

休んでおられた方のために復唱しますと、一本目の矢は祈りの必要性和価値でした。そして、二本目の矢は励ましを受ける教会の必要性でした。今日は三本目の矢を見ていきます。

### 三本目の矢 - 人を不当に裁いてはいけない

兄弟姉妹の皆さん、すべての説教が心地よい響きであるとは限りません。

テモテ第二 4:3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、

聖書はスーパーマーケットではないので、好きなものだけを選ぶわけにはいきません。聖書のみことば全体を受け入れる必要があります。

今日の聖書箇所は、マタイ 7:1-5 です。

マタイ 7:1-5 7:1 さばいてはいけません。さばかれたいからです。7:2 あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。7:3 また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。7:4 兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください』などとどうして言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。7:5 偽善者よ。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。

マタイ 7:1 は、聖書の中でもよく引用される箇所です。クリスチャンだけでなく、ノンクリスチャンの人たちもこの箇所を引用します。ヨハネ 3:16 に並んで親しまれたみことばで、そこには、「さばいてはいけません。さばかれたいからです」とあります。

マタイ 7:1 さばいてはいけません。さばかれたいからです。

このみことばによって、現代社会は人類史上もっとも寛容で何でも受け入れる社会となりました。政治的な適切さを重んじるあまりの結果です。政治的な適切さについて例を挙げて説明しましょう。これから3つのことを私が言いますので、その内容に賛成するかどうか考えてください。**#1** 神は婚前交渉を姦淫と呼ばれるので、婚前交渉をする者は罪を犯している。**#2** 殺してはならないと神が教えておられるので、正当な理由なく人工中絶手術をする医師は罪のない赤ん坊を殺す殺人者である。**#3** 神の

教えによれば、婚姻は男女間に限られており、それ以外は罪である。「でも酌量すべき情状もあるのでは」と思う人もいるかもしれません。相対的な道德観に陥ってはいけません。つまり、状況に合わせて道徳的に正しいかどうかを図ることはできないのです。神の視点から見て道徳的に正しいことはすでに決まっています。同性愛者や娼婦、薬物の売人、泥棒の人たちに、教会の前列の席に座ってほしいと思います。今日は、裁くことについて3つのことを学んでいきましょう。

### 教訓 #1 誰かを裁く前に、まず自己吟味しなければならない。

丸太が目刺さった状態の人が、他の人の目に木くずが入っていることを指摘しようとするのはずいぶんおかしい話です。自分の目に入った丸太が見えていないと、夢中で人を裁いてしまいます。この世がそれを助長します。フェイスブックでも、友だちの投稿について「いいね！」を付けたり外したりできます。私たちは自分を裁き主にしてしまっていないでしょうか。裁かないようにする解決法は、自分を省みることです。アフリカに、思わずうなずけることわざがあります。チンパンジーは、他のチンパンジーのしっぽを見て笑う、というものです。チンパンジーは、自分にもしっぽがあることを忘れてしまうということのようです。実際にはチンパンジーにしっぽはありませんから、何を見て笑っているのか不明です。私たちも他の人を裁く前に、自分のことを省みましょう。聖餐式のたびに、コリント第一 11:28 のみことばから改めて教えられます。

**I コリント 11:28** ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。

また今日の聖書箇所5節には、私たちが偽善者になってしまうことがあるとも書かれています。

**マタイ 7:5** 偽善者よ。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。

自分のことを棚に上げて人を改めさせようとするなら、それは偽善的なのではないのでしょうか。この箇所から、私たちが互いを裁きあうことを神が禁じておられるのではないことに注目していただきたいと思います。そこには、「そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます」とあるからです。誰かが公然と明らかに罪を犯していたとします。クリスチャンにとって愛とあわれみをもって対処するとは、どうすることでしょうか。見て見ぬふりをするのでしょうか。違います。罪を見逃してはいけません。けれども、まず自分を省みることが大切です。教会にいる一番弱い信徒によってその教会の強さを測ることができると思います。ですから、教会である私たちがお互いを強めて助け合えば、全体が恵まれます。今朝すでに、心の中で裁きを下した人もいるでしょう。ここに来る前に、すでにそうしたのでしょうか。聖書が罪と呼ぶことをする兄弟がいて、聖書は兄弟の目から木くずを取ってもよいと教えていても、自分はそんなことをしないと決めつけてしまっているのです。兄弟姉妹の罪は自分に影響がないから、そのまま放っておくと心で決着しているのです。対立や衝突を好む人はいません。けれども、私たちがお互いに真正面から向き合うよう神は招いておられると信じます。日常生活にはストレスが多いと思いますか。真正面から向き合うのは、さらにストレスがかかることです。

### 教訓 #2 正しい心構えで人を裁くよう細心の注意を払わなければならない。

私たちの言動は、愛に裏打ちされていなければなりません。

**I ヨハネ 4:7** 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

聖書は、私たちが人にしてほしいと思うように人を扱いなさいと教えます。今日の箇所2節にはこうあります。

**マタイ 7:2** あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。

あなたが人を裁くのと同じ量りであな自身も裁かれると語ります。私たちは、人を裁く権利があるかのように、事情をよく知らないで性急に結論付けてしまうことがあります。気づかないうちに決めつけるのです。自社の倉庫を訪れた会社の重役のたとえ話で説明してみましょう。彼はお忍びで倉庫を訪れました。積載エリアに着くと、積み上げられた箱にもたれかかっている男性がいました。20分ほど様子を見ていましたが、箱にもたれたまま何もしていません。重役はこの男性に近づき、「1週間でどれくらい給料をもらっているのですか」と尋ねました。男性は「1週間で9万円です」と答えました。重役は財布から9万円を取り出すと、この男性にそれを手渡し、「退職金です。あなたを解雇します」と言いました。現場の責任者が重役に近づき、「何事ですか」と尋ねると、重役は、20分もその男性の様子を見ていたが箱にもたれているだけで何もしていなかった、と事の次第を説明しました。責任者は言いました。「あの人はうちの社員ではありません。運送会社の運転手で、荷物の受領印を待っていただけです。」このたとえ話のように、私たちは事情をよく知らないで決めつけてしまうことがあります。

判断や裁きを下さなければならないときは、常に相手の立場に立って考えなければなりません。過ちを指摘される立場なら、無情にではなく、愛情をもってしてほしいと思うでしょう。また、いろんな人に陰口を言うのではなく、直接言いに来てほしいと思うでしょう。ここでイエスが言っておられるのは、誰かを裁く前にその人の立場に立って、自分ならどのように対処してほしいかを考える必要があるということです。これを念頭に、罪を指摘する際の相手への接し方を決めていくのです。言葉に出さなくても、よくない態度が相手に伝わってしまう場合もあります。例えば、腕組みをして人の前に立ちはだかれば、敵意が感じられます。知らず知らずのうちに人を見下して裁き、鼻であしらってしまうことがあります。どのように振る舞うかは大切です。主がどう振る舞われたかを見れば、多くを学べます。宗教的な偽善者には、主は驚くほど率直であられました。盲人を手引きする盲人だと主が偽善者のことをおっしゃった個所を覚えていますか。

**マタイ 15:14** 彼らのことは放っておきなさい。彼らは盲人を手引きする盲人です。もし、盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むのです。」

また、偽善者は白く塗った墓のようだとおっしゃいました。

**マタイ 23:27** わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいです。

一方、罪にとらわれた人々に対しては、主は忍耐とあわれみの限りを尽くされました。ヨハネ 8 章で、姦淫の現場を捕えられた女が登場します。主はこの女を守り、「行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません」とおっしゃいました。

### 教訓#3 適切な基準を用いなければならない。

まず、裁くことは悪くありませんが、決めつけてはいけません。聖書が私たちに与えられた基準です。みことばは、互いに戒めあうことをよしとしています。戒めるとは、叱ったり責めたりすることです。

**コロサイ 3:16** キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。

そうです。神は、互いに戒めあうことをよしとされます。兄弟姉妹で戒めあうときに、キリストの御名によって歌を歌いなさいとみことばは教えます。簡単なことではありません。戒めることを率先してする人がいないのは問題です。さらに神は、互いを裁くのが許されているのはなぜか、教えてくださいます。

**ヨハネ 7:24** うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。

うわべによって裁かないで、正しく裁きなさい。つまり、神の基準に基づいて間違っていることがあるなら、そしてそれを私たちが知っているなら、神は互いに戒めあう権利と責任を私たちに与えておられるのです。

I コリント 5:11 私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、食欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてもいけない、ということです。

私たちが教会として成長する過程で、OIC の兄弟姉妹がともに食事もしないという状態にならないことを祈ります。神は適切な基準を与えてくださいました。その基準を私たちが理解していないなら、それは聖書を読んでいないということか、過ちを示してくださる聖霊の働きを受け入れていないということです。適切な基準とはもちろん神のみことばです。マタイ 18 章のみことばには、兄弟姉妹の悔い改めを手助けする基準が示されています。

マタイ 18:15-17 18:15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。 18:16 もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。 18:17 それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人や取税人のように扱いなさい。

私たちの教会では、罪を指摘されても改善が見られず、教会全体に知らせなければならないような状況が起こらないことを願いましょう。そんなことが起こったら、OIC にとっても主にとってもずいぶん悲しいことです。私たちの基準となるのは常に、そして永遠にキリストです。イエスは、実を調べる人になりなさいとおっしゃいました。

マタイ 7:16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。

私たちクリスチャンには、他のクリスチャンの言動に目を向ける責任があります。あらゆる言動を神のみことばに照らし、判断するのは、そのうえで、次に何をすべきかを決めなければなりません。判断を下す場合には、適切な基準を用いる必要があります。適切な基準と適切な心構えが必要です。誰かのことを頭ごなしに決めつけてしまう前に、あわれみを示したいものです。

## 結び

最後にもうひとつみことばを見てみましょう。

ガラテヤ 6:1,2 6:1 兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。 6:2 互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。

クリスチャンと同じように行動することをノンクリスチャンに期待してはいけません。世間の人たちが正しい行いをするように期待はできません。一方、キリストにある兄弟姉妹には、そのように期待してよいのです。裁いてもよいのでしょうか。もちろんです。しかし、魔女狩りではありません。裁いてもよいのでしょうか。もちろんです。聖書には矛盾がありません。ですから、聖書を基準とする場合のみ、裁くことが許されます。実を調べる人になってもよい、というのがよりよい言い方かもしれません。互いに戒めあうというのは、教会の体にとって非常に難しいことですが、私たちが時折そうすることを神が望まれます。裁くことの目的は、罪を突き止めることではありません。罪人を立ち直らせることです。私たちは保護監察官のように目を光らすようには召されていません。罪について誰かに話をする必要が出てきたら、それはその人が罪を離れる手助けをしたということです。教会が強められるのに貢献したということです。けれども、その人が悔い改めた後もその人を悪く思い続けるなら、その人を保護観察のもとに置いていることになります。神は愛の神であり、その人の罪のためにも御子を送ってくださいました。罪の赦しを神に求めたなら、神はその罪を忘れてくださいます。教会には基準が必要です。先ほども言ったように、教会にいる一番弱い信徒によってその教会の強さを測ることができると思います。誰にも弱い時があります。今日の説教は心地よい響きのものではありません。むしろ、耳の痛い内容ですが、キリストにある兄弟姉妹の皆さん、神の望まれる教会になるには、神が与えてくださった基準に則って歩まなければならないのです。